

ビバハウス便り No.120 坪内主任指導員の退院でひと安堵！！

2017年7月15日 青少年自立支援センター ビバハウス

責任者 安達俊子

前号で急遽お知らせした坪内主任指導員のがん治療は、幸いな事に発見と手当が早かったため（ステージ1）、森内科胃腸科医院（仁木町）、余市協会病院、小樽市立病院、手稲溪仁会病院、札幌の専門の癌検査センターの皆さんのお陰で、癌の実態が正確に究明され、手稲溪仁会病院で下咽喉癌に対する放射線治療を受けて、無事7月初めに退院できました。しばらくの間は、放射線治療の後遺症で、のどに痛みがあり、なかなか声も出しづらい状態も続きましたが、ようやく最近は普通に話せるような様子です。本人の完全回復を第一に、本人の希望に合わせて、ビバの夏休み明け（8月19日）以降に、少しずつ体調に合わせて、できる仕事を増やしてもらおう事で本人と話しているところです。

準備の段階で坪内指導員が大健闘したモンガク農場では、引き継いだ桑田指導員とビバの若者達の暑さに負けない頑張りで、すでに立派なインゲンの収穫が出来、取り急ぎ初物を身近なお世話になった方々にお届けし始めることができた。これから次々に、きゅうり、かぼちゃ、オクラ、ミニトマトなどが出来るとの事なので、例年のように利用者のご家族に送りたいと願っている。

ここしばらくは、ビバでは次々に卒業していく若者はいても、なかなか新規の入所者がいなくて、幾文寂しい思いをしていたが、この夏休み明けの8月19日には、東京八王子市からの北星余市高校卒業生の女性が来ることが決まった。また、神奈川県からは、来年度北星余市校への入学を希望する男性が入学前にビバハウスでの生活を希望していて、先日父親がビバハウスを尋ねてこられて、ぜひともお願いしたいとの事であった。平野新校長の下でも厳しい新入学者確保の条件にある北星余市高校の存続のためにも、元教職員の一人として、全力を挙げて取り組みたい。

夏休みを真じかにして、うれしい事に何人ものビバの卒業生から懐かしい連絡をもらった。今日も京都からと旭川から電話があった。毎日のルーティンから家族で一息ついている間にビバの話が出たので懐かしくなって電話したとの事。是非ビバを訪ねたいとの希望であった。大歓迎ですと応えた。

最近のビバの若者達の会話には、北朝鮮のミサイルに関わるものもある。武力には武力で対するべきなのか？それとも何か他に方法があるのか？年金者組合の方が届けてくれた『核兵器の禁止を求める署名』と今年の『原水禁世界大会余市代表派遣の訴え』を若者たちに呼びかけた。全ての若者が署名をしてくれた。